

令和5年度 第73次印旛地区教育研究集会

体育分科会 第5部会提案資料

資料編



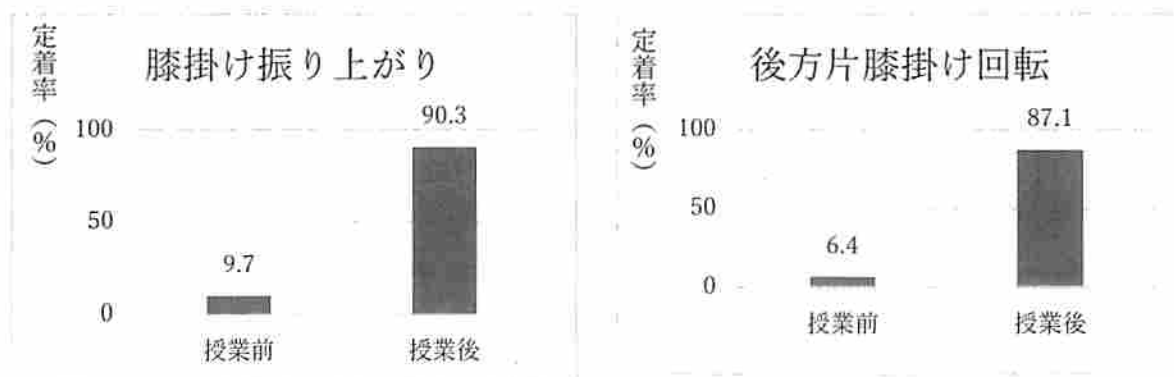
## 【目次】

1. R5年度実践と考察	P 1
2. 感覚づくりについて	P 6
3. 技のポイントについて	P 7
4. 形成的評価 診断的・総括的評価	P 8
5. 学習指導案	P 9
6. 学習カード	P 19

## 1. 仮説検証の結果と考察（R 5年度実践）

上記の課題を生かし市内2校の3年生を対象に再度検証授業を行った。

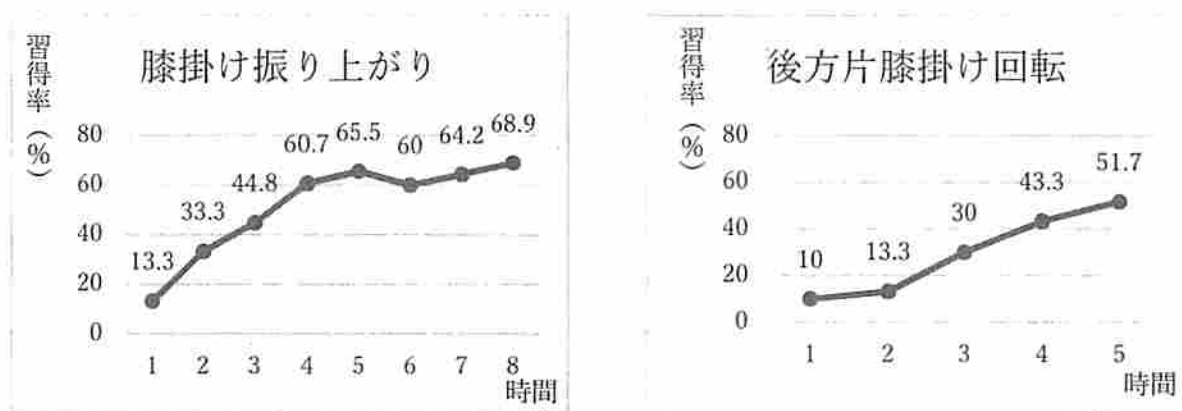
### <仮説1について>



知識については、昨年度のデータと同様、90%前後の成果がでた。やはり、1時間に1つずつポイントを提示していくことは、有効であったのではないかと感じた。また、できる例とできない例を比較させるなど、児童がその日のポイントに気付くような工夫をしたことで、より印象に残ったのだと考える。

### <仮説2について>

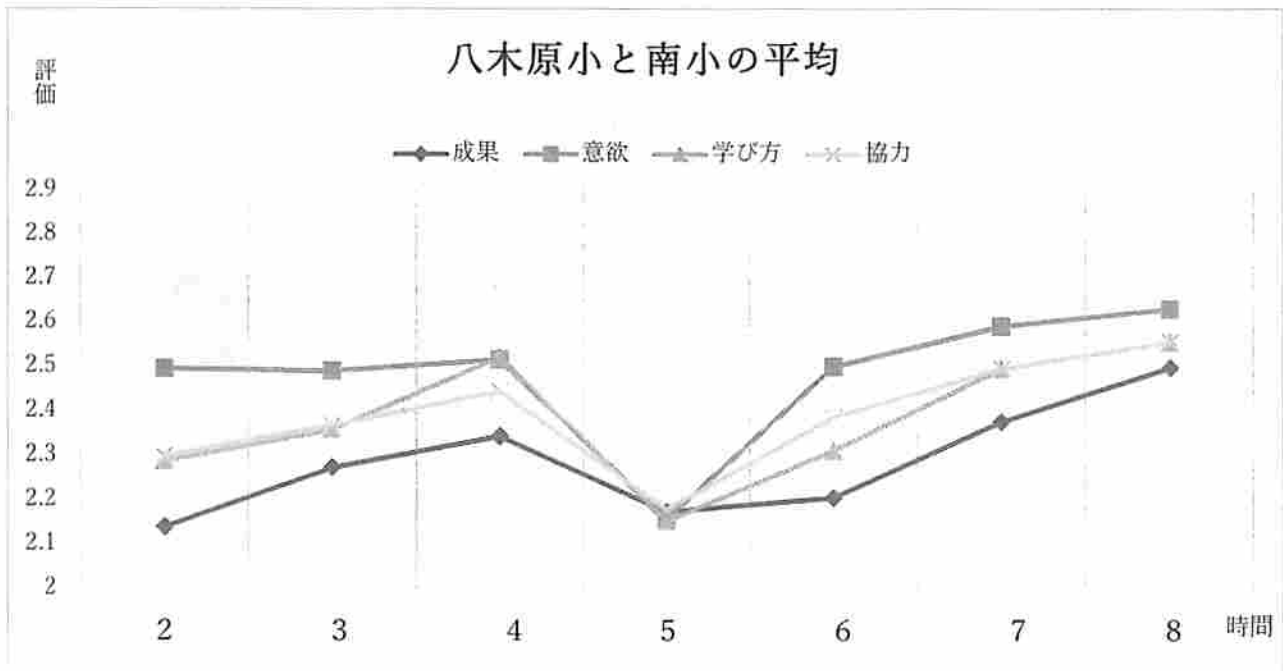
#### ①技能定着率から



感覚づくりの内容に大きな変更はないが、コウモリに強い恐怖心をもっている児童には、ふとん干しに変更し徐々に恐怖心をなくせるようにした。その結果、鉄棒への恐怖心が減り、技能の伸びへとつながったと考える。また、児童の中には、感覚づくりの中で自分の成長や楽しさを感じていた児童もいた。個の段階にあったレベルで感覚を磨くことで、より効果を発揮できるのではないかと感じた。

その一方で、最後まで鉄棒への恐怖心が残ってしまっていた児童もいる。特に、後方片膝掛け回転のときに後ろへ倒れることを怖がる児童が多かった。そういった感覚も身に付けさせ、鉄棒へ慣れさせていくことで、更に技能の習得者が増えていくのではないかと考えた。

②形成的評価・児童の感想から



	2校時	3校時	4校時	5校時	6校時	7校時	8校時
成果	2.138365	2.272727	2.343434	2.173423	2.205607	2.375887	2.497942
意欲	2.495283	2.489899	2.515152	2.158784	2.5	2.590426	2.62963
学び方	2.287736	2.358586	2.520202	2.152027	2.311321	2.494681	2.555556
協力	2.29717	2.368687	2.444444	2.179054	2.386792	2.494681	2.555556

すべての観点で伸びは見られた。成果は技能を習得できた児童が増えたことが1番の要因だと考える。また、技ができなくても評価が上がっている児童が見られた。ポイントを段階的に示したことで、だんだんと技能が上達していっていることが実感できたのだろう。意欲についても同様のことが言えるのではないかと思う。また、補助具を使用したことにより、けがなくできたことも伸びにつながったのだと考える。学び方についても、毎時間のポイントの一つに絞ったことで、めあてが明確になり、課題練習に取り組みやすくなったと感じている。協力についても、本時の課題が明確になったことにより、友達にアドバイスがしやすくなったことや、単元が進むにつれ補助に慣れていったことで評価が上がっていったのだと考える。また、技能の伸びが感じられたことにより、自信をもって助言できるようになったのではないかと感じる。

すべての項目で共通して、4時間目に評価が下がってしまっている。技が切り替わったことが一つの要因だと考える。また、膝掛け振り上がりと後方片膝掛け回転の動きに関連性がなかったことが原因であると感じている。後方片膝掛け回転に入る前に、後方膝掛け振り上がりを取り入れ、似た動きを経験することで改善していきけるのではないかと考える。



診断的・総括的評価

項目名	単元前	単元後	P 値	有意差	評価
	平均得点	平均得点			
01 楽しく学習	2.902	2.902	0.999		5→5
02 明るい雰囲気	2.616	2.696	0.312		5→5
03 丈夫な体	2.866	2.955	0.051		5→5
04 精一杯の運動	2.875	2.929	0.239		5→5
05 心理的充足	2.670	2.750	0.270		3→4
たのしむ (情意面)	13.929	14.232	0.026	*	5→5
06 工夫して勉強	2.554	2.643	0.304		5→5
07 他人を参考	2.527	2.696	0.062		3→5
08 めあてを持つ	2.429	2.732	0.0008	**	5→5
09 時間外練習	2.277	2.241	0.755		4→4
10 友人・先生の励まし	2.598	2.732	0.102		5→5
まなぶ (認識目標)	12.385	13.044	0.002	**	5→5
11 運動の有能感	2.330	2.420	0.384		5→5
12 できる自信	2.473	2.563	0.329		5→5
13 自発的運動	2.509	2.634	0.165		5→5
14 授業前の気持ち	2.661	2.794	0.071		5→5
15 いろいろの運動の上達	2.688	2.821	0.056		5→5
できる (運動目標)	12.661	13.232	0.006	**	5→5
16 自分勝手	2.875	2.929	0.239		5→5
17 約束事を守る	2.821	2.938	0.0102	*	5→5
18 先生の話聞く	2.893	2.946	0.228		5→5
19 ルールを守る	2.946	2.982	0.201		5→5
20 勝つための手段	2.893	2.973	0.034	*	4→5
まもる (社会的行動目標)	14.428	14.768	0.0002	**	5→5
総合評価	53.166	54.478	0.151	0.151	5→5

※有意水準5%でt検定を行った結果、有意差が認められた項目は\*

※有意水準1%でt検定を行った結果、有意差が認められた項目は\*\*

○データ分析

平均得点が下がった項目と変容が見られなかった項目は「楽しく学習」「時間外練習」であったが、いずれもわずかな下がり方であり、有意差は見られなかった。

残りの18項目については、向上が見られた。5%水準で有意差が認められた項目は、この内3項目にあたる。特に「めあてを持つ」2項目については、1%水準でも有意差が見られた。観点では、情意面と認識目標、運動目標、社会的行動目標に有意差が見られた。

評価については、下がった項目はなかった。評価が上がった項目は「心理的充足」と「勝つための手段」の2つだった。「勝つための手段」については有意差も見られた。感覚づくりを友達と競い合えるようにし、楽しみながら行えたことで評価が上がったのだと感じる。

以上のことから、習得する技をしぼり、ポイントを児童が理解したことで、自己の課題をもちやすくなったことで、「めあてを持つ」の項目の向上に繋がったと考える。

#### <成果と課題>



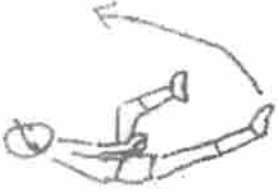

##### ○成果

- ・知識を定着させ、協力できる環境を整えることで、以前よりも技能の伸びが見られた。
- ・感覚づくりを、児童の実態によって1部変更することで、恐怖心が緩和された。
- ・補助を毎時間必ず行ことで、技を行う感覚がつかむことができた。また、補助をしている側も、前と比べてどうなっているか助言をする姿も見られた。
- ・補助具を使うことで、マイナス要素が減ったため、練習時間が活発になり、「できた」につながった。

##### ○課題

- ・鉄棒の期間のみで恐怖心をなくすのは困難であった。低学年からの積み重ねや、他の単元とも関連性をもたせていく必要がある。
- ・取り上げる技の動きに関連性がなかったので、見直す必要がある。今回であれば、①膝掛け振り上げ上がり、②膝掛け振り後ろ上がり、③後方片膝掛け回転のようにすべきだった。
- ・学習カードに児童が見つけたポイントなども書き込むようにすると、さらにグループ活動が充実したものになったのではないか。

## 2. 感覚づくり

種目	つけたい感覚等
<p>①つばめ→後ろ振り跳び降り より遠くに着地できるように競い合う</p> 	<p>○鉄棒の上で体を支える感覚を身に付ける。 ○足を大きく振る感覚を身に付ける。</p>
<p>②こうもりジャンケン 両膝掛けで逆さになりジャンケンをする。手が離せない子は口で言う。それでも怖い子は、ふとん干して行う。</p> 	<p>○逆さになることに慣れる。</p>
<p>③靴飛ばし 鉄棒に片足をかけぶら下がり、足を振りオーバーヘッドキックをするようにスリッパを遠くへ飛ばす。より遠くに飛ばよう競い合う。</p> 	<p>○片足で足を前に強く蹴る感覚を身に付ける。</p>
<p>④ダンゴムシ 鉄棒に肘を曲げた状態でぶら下がり、足をたたく。(最低10回) 何回できたかを競い合う。</p> 	<p>○鉄棒に体を引きつける力を身に付ける。</p>



### 3. 技のポイント

#### 1. 膝掛け振り上がり

①足をリズムよく大きく  
振り、勢をつける。  
(膝を伸ばす)

③手首を返し、  
鉄棒を押し。



②肘を曲げ、鉄棒に  
体を引きつける。

※①を重点的に指導をしていく。

※②③は、上体が鉄棒を超えているが上がれない子にアドバイス

#### 2. 後方膝掛け回転

①足を大きく ②足を勢いよく蹴り上  
後ろへ引く。 げる。

③手首を返し、鉄棒  
を押し。



※②→①の順番で指導をする。

※③は、勢いはあるが回りきらない児童にアドバイス(止まれなくても成功とする。)



## 1 単元名 準備体操(振り上がり・後方片膝蹴り回転(体操運動))

## 2 単元に 있어서

## (1) 一般的特性

【種別の特性】・体操運動は、様々な動きに取り組みたり、自分の能力に合った技術や表現技法を表現したりして技を身に付けたときに楽しさや喜びを感じる運動である。

【運動的特性】・体操運動は、器械、器具を用いて回転、支持、懸垂などの運動を行い、いろいろな技に挑戦し、できるようなる達成感の運動である。

・基礎的な技をとり高めたり、できそうな表現技法に挑戦したりする運動である。

【効果的効果】・様々な動きを通して、運動感覚や協調性、調整力を身に付けることができる運動である。

## (2) 児童の発達特性

・支持回転などの回転動作、挑戦したり、姿勢を変化させたり回転したり多様な楽しさがある運動である。

・技の練習、準備する動きを終わることで閉鎖、開放が繰り返し、体の時間等も取り扱われるようになる運動である。

・決定的な経験や生活の中での取り組みの違いにより、個人差が大きい運動である。

・「できる」「できない」の別はつきりある運動である。

・器具が特異し、器具だけで体を支える動きが少なく、体が不安定になり恐怖感や苦手を克服を持つことで運動できる。

## (3) 児童の発達

## 学習者

## (4) 教師の指導観

体操運動で楽しさを味わうためには、技能の上達すなわち「できる喜び」を体験させることが必要である。この「できる喜び」から来る達成感や感動・自信こそが、活動する意欲につながる。つまり、技能の習得のめざすゴールは達成である。まず、技能を習得しやすくなるためには、毎時間毎の取り組みを大切にいく。これは、準備体操に軸を置く技に特化したものの空想図に行い、達成を喜び、達成の喜びを目標にするために行う。児童の習得を特徴とするよう、チーム感覚で行なうような工夫をしていくことで、必要が達成感や身に付きやすくなる。次に、技能の技のポイントが分かるように児童がどのような課題を構える、技能のポイントを確認する時間を設ける。毎時間ポイントに合わせた良い所を思い出す見せ、児童はポイントを見つけていく。準備体操の上げりでは「リズムよく足を振る」「手を向けて足を大きく振る」「両手膝蹴り回転では「足を振り上げる」「足を大きく振る」に引いてから勢いよく振り上げる」というように段階的にポイントをおししていくことで技能を確実に定着できるようにしていく。また、児童がポイントを足に感じることで、知識の定着をしやすくなる。その他のポイント(手拍、上半身の姿勢等)については、順に感じてもらっていき、最後は、技のポイントが分かるようにして、自分で自分の動きが見えないため、できているのが分かるようにしていく。グループで技能が

ポイントができているかを確認し、低学年の児童から練習を行っていく。お兄の課題について協力する

ことで、より知識の定着につながるだろう。また、苦手意識をもっている児童も、叱咤激励の中で、全体で補助のやり方を確認していく時間を設けることによる。

このように考えを踏まえ、学習意欲を以下のとおりに行わせる。毎時間ごとに「準備体操」を行う。その夜「自分の目標を達成し、自分の課題を克服する。そして、グループごとに練習を振り返り合う」という取り組み「課題克服」を「課題解決」をサポートすることで、技能の習得が促されるであろう。また、他校では、本時にできるようなになった児童を呼び出し、練習し合うことで達成感や喜びをより味わえるようにしたい。

## 3 単元目標

## 知識及び技能

① 準備体操(振り上がり・後方片膝蹴り回転)の行い方を知ると同時に、身に付けることができるようになる。

② 姿勢力、呼吸力、表現力等

③ 自己に合った課題を設定し、挑戦できるようなるための活動を通して、考えたことを実際に試せるようになる。

④ 学びに向かう力、人間性等

⑤ 運動に積極的に取り組み、物事を学習し合い、運動をしたり、様々な器具の活用による楽しさを味わえるようになる。

## 4 評価基準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のより 深い(理解) ごとの理解 定着	① 準備体操(振り上がり)の技の 習得が回転のポイントを 理解している。 ② 基本的な上半身技ができる。 【準備体操(振り上がり)】 ③ リズムよく足を振ること ができる。 ④ 足の伸ばして大きく振る ことができる。 ⑤ 基本的な支持回転技を行 うことができる。	① 自己やグループの課題を 見つけ、挑戦できるような るための活動を行う。 ② 考えること、考えあ うことや表現力がある。	① 技を身に付ける楽しさを味 わうため、時間の考えや 課題を認めたり、場や器械・ 器具の活用による楽しさを 味わう。
視察の目標 達成	① 準備体操(振り上がり)の技の 習得が回転のポイントを 理解している。 ② 基本的な上半身技ができる。 【準備体操(振り上がり)】 ③ リズムよく足を振ること ができる。 ④ 足の伸ばして大きく振る ことができる。 ⑤ 基本的な支持回転技を行 うことができる。	① 自己やグループの課題を 見つけ、自分の技に合った練 習に取り組んでいる。 ② 友達の良いところを見て、良い 点や改善点を伝えている。 ③、練習は他人で取り組 むことができる。	① 体操運動の楽しさを味 わうため、時間の考えや 課題を認めたり、場や器械・ 器具の活用による楽しさを 味わう。

期 次	時 間	指導と評価計画								
		3 習	3 習	3 習	3 習	3 習	3 習	3 習	3 習	
3 習	0	①健康観察 ②予備的運動 (胸・手足指先のストレッチ、背回し)								
	3	③感覚作り (グループ) 【つばめ→後ろ振り跳び→モモリジャンプ →一輪車はし→大人て虫】 (5時から後振振はし上がりを追加する。)	3	④感覚作り (グループ) 【つばめ→後ろ振り跳び→モモリジャンプ →一輪車はし→大人て虫】 (5時から後振振はし上がりを追加する。)	3	④感覚作り (グループ) 【つばめ→後ろ振り跳び→モモリジャンプ →一輪車はし→大人て虫】 (5時から後振振はし上がりを追加する。)	3	④感覚作り (グループ) 【つばめ→後ろ振り跳び→モモリジャンプ →一輪車はし→大人て虫】 (5時から後振振はし上がりを追加する。)	3	④感覚作り (グループ) 【つばめ→後ろ振り跳び→モモリジャンプ →一輪車はし→大人て虫】 (5時から後振振はし上がりを追加する。)
3 習	1.3	学習の進め方や練習の様子について考える。 練習の様子について考える。	2.0	実態把握 ③ホップの確認 グループで行い、全体で共有 →練習 ③練習 演技 (補助) → 助言 → 練習	2.3	り、後方 ⑥できるようになった児童の紹介 発表会	4.0	回数の ⑦本時の振り返り	4.0	回数の ⑦本時の振り返り
	1.3	学習の進め方や練習の様子について考える。 練習の様子について考える。	2.0	実態把握 ③ホップの確認 グループで行い、全体で共有 →練習 ③練習 演技 (補助) → 助言 → 練習	2.3	り、後方 ⑥できるようになった児童の紹介 発表会	4.0	回数の ⑦本時の振り返り	4.0	回数の ⑦本時の振り返り
3 習	1	①安全	②意識	③意識	④意識	⑤意識	⑥意識	⑦意識	⑧意識	
	2	①安全	②意識	③意識	④意識	⑤意識	⑥意識	⑦意識	⑧意識	
3 習	3	①安全	②意識	③意識	④意識	⑤意識	⑥意識	⑦意識	⑧意識	
	4	①安全	②意識	③意識	④意識	⑤意識	⑥意識	⑦意識	⑧意識	
3 習	5	①安全	②意識	③意識	④意識	⑤意識	⑥意識	⑦意識	⑧意識	
	6	①安全	②意識	③意識	④意識	⑤意識	⑥意識	⑦意識	⑧意識	
3 習	7	①安全	②意識	③意識	④意識	⑤意識	⑥意識	⑦意識	⑧意識	
	8	①安全	②意識	③意識	④意識	⑤意識	⑥意識	⑦意識	⑧意識	

【後方片膝振り跳び】 ①足を大きく振り上げること ができる。 ②足を大きく振り上げるとき、 勢いよく振り上げること ができる。	
--	--

3 指導と評価計画

6 本時の指導 (1/8)

(1) 目標

< 学習> ① 身体運動のきまりを守り、安全に気をつけて練習をしている。

(2) 展開

課程	時間	学習内容と活動	指導・支援、評価	用具・資料
はじめ	1	1 集合・整列・挨拶・健康観察・服装・持ち物等の確認をする。	○顔色を見ながら、健康観察をし、服装の確認をする。	
	2	2 準備的運動を行う。 腕・手首屈伸、首回し	○怪我を防止するために念入り行うよう指導する。	
なか	2	3 本時のめあてを確認する。 身体運動のきまりを守りながら練習しよう。	○皆で声を出して確認させる。	筆記用具 補助器具 緊急セット
	7	4 学習のねらいを知り、単元の見通しをもち、身体運動を確認する。  5 運動中やりの約束を知る。 ①のほかに、次の約束を知る。 ② 集中して練習しよう。 ③ 約束を守ろう。 ④ 安全に気をつけて練習しよう。	○膝掛けを取り上げると膝掛け戻る回りの習得を目指すことを伝える。 ○見本を見せ、みんな真似に挑戦するのを促すようにする。 ○身体運動の約束として、身体に負担をかけないようにすること、友達が練習している時に近づかないことについて確認する。 ○学習の流れ、ねらい、単元の学習の進め方を理解させる。 ○約束の確認指導を確認する。	
	13	6 膝掛け振上がり、膝掛け戻る回りの実践を行う。	○安全に気をつけて活動するようには約束の確認を行う。 ○全員が膝掛けを上げ、できたら半膝字に変える。膝掛け上げの音が終わったら、膝掛け戻る回りに取り組まされる。 ○身体運動のきまりを守り、安全に気をつけて練習をしている。	

41 41 5	2	7 準備運動を行う。	
	3	8 振り返りをし、片付けをする。	○進んで行っている児童を指導する。

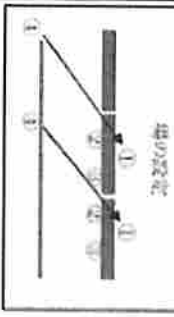
(1) 目標

○知識及び技能>>○リズムよく足を振ることが出来る。

<<学び>>

◎技ができるようになるために、練習に専らに取り組みようとしている。

(2) 展開

課題	対応	学習内容と活動	指導・支援、評価	用具・資料
はじめ	1	集合・整列・挨拶・健康観察・服装・持ち物の確認をする。	○顔色を見ながら、健康観察をし、服装の確認をする。	
	1	子種運動をける。 腕・手の足首、首回し		
	2	足踏みを行う。	○ケガには留意し、ケガや痛みでできるよりにさせる。 ※資料参照	
	3	リズムよく足を振る練習をする。 リズムよく足を振る練習をする。		
	4	リズムよく足を振る練習をする。 リズムよく足を振る練習をする。		
	5	リズムよく足を振る練習をする。 リズムよく足を振る練習をする。		
なか	20	細別のやり方を確認し、グループごとに練習する。 役割を確認し、練習に取り組む。  場の設定 	○友達の演技を見て、良い点や改善点を伝え、必要に応じて補助をするように指導していく。 ○リズムが良くない児童には、膝をおさえるなど補助をしたり、リズムをとったりする。 ○できるよりになった児童は、足をふる距離を減らしたり、足を代えたりするなど工夫して技を磨くように指導していく。 ○リズムよく足を振ることが出来る。 【中・授】◎	筆記用具 補助器具 クッション 練習マット

なか	5	6	7	8	9
		できるよりになった児童の演技を発表する。見た感想を伝える。	振り回しを行い、自分では出来ない振り回しを行う。		
					本時のポイントを確認し、グループ内で発表する。
					学習シート

◎技ができるようになるために、練習に専らに取り組みようとしている。  
【注】◎

○本時のポイントを確認できるような意見や次時につなげるような発言を取り上げていく。

本時の指導 (5/8)

(1) 目標

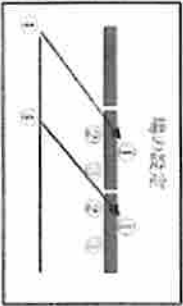
◎球を伸ばして足を大きく振ることが出来る。

＜知識及び技能＞

◎投技のフォームに「ス」で理解し、その技に応じた練習に取り組んでいる。

(2) 展開

課程	内容	指導・支援、学習	用具・資料
はじめ	1 集合・整列・挨拶・健康観察・服装・持ち物等の確認をする。	◎顔色を見ながら、健康観察をし、服装の確認をする。	
1	2 予備的運動を行う。 腕・肩回旋、背屈し		
2	3 遠投作りを行う。 1. フォーム感でできるようにはし、楽しみながら感覚をつくりだせるようにする。 ◎教材動画 中野利剛選手	◎フォーム感でできるようにはし、楽しみながら感覚をつくりだせるようにする。 ◎教材動画 中野利剛選手	
3	4 めかでの確認 長い柄杓と長くなげの柄杓を見比べて、本時のフォームを確認する。前後の距離を確認する。	◎柄杓は目ざして、本時のめかでは必ず付けるようにする。 ◎背で柄杓を出して確認をする。	
20分	5 フォームごとに練習する。 ・両腕を確認し、練習に取り組み。	◎友達の演技を見て、目ざし点や改善点を伝える、必要に応じて補助をするように指導していく。 ◎練習が終わった後には、伸ばすより背が伸びたり、膝をおろさなご補助をしたりする。 ◎できるようになった児童は、足を代えたり、足をふる回数を増やしたりするなど工夫して投を撃くように指導していく。 ◎音楽のみのフォームでは理解しにくい児童には、動画を振り仮名的に確認させる。	筆記用具 補助用具 ウェア ボールネット



① 足は地面から振る。

20分	6 できるようになった児童の演技を知らせる。足の感覚を伝える。	◎本時のポイントを確認できるような意見や感想につなげるような発言を取り上げていく。	
1分	7 整理運動を行う。		
3分	8 振り回りをやり、片付けをする。	◎本時のポイントに「ス」で振り返り、学習カードに書き添える。	学習カード

お母の指導 (4/8)

(1) 目標

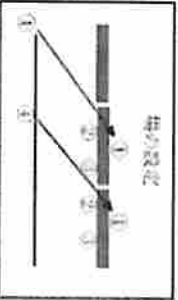
①知識及び技能

○膝掛け振り上げりのポイントを理解している。

＜思考力・判断力・表現力＞②友達の動作を見て、良い点や改善点を伝えられる。

(2) 展開

課題	内容	指導・支援・評価	用具・資料
はじめる	学習内容の活動	○指導・支援・評価 ○顔色を見ながら、健康観察をし、服装の確認をする	用具・資料
1	1 集合・整列・挨拶・健康観察・服 装・持ち物等の確認をする。		
1	2 予備的運動を行う。 腕・手首足首のストレッチ、背伸び		
7	3 感覚遊びを行う。 ①-②のゲームで遊ぶ振り回す なごももりジャンケン ③感覚はし おはなごま	○ゲーム感覚で行えるようにし、楽しみながら感覚遊びの練習ができるようにする。 学習料準備	
5	4 ④での確認 お母のポイントを確認する。身体 の姿を確認する。	○膝掛け振り上げりのポイントを確認し、練習で生かせるようにする。 ○皆で声を出して確認をする。	
20	5 ゲームごとに練習する。 ・役割を確認し、練習に取 組む。	○友達の動作を見て、良い点や改善点を伝え、必要に応じて補助をするように指導していく。 ○足が離れていない状態には、足を押すなど補助をしたり、強く振り上げるように声をかけたりする。 ○できるようになった児童は、足を変えたり、足をふる回数を増やしたりするなど正しくして技を習くように指導していく。 ○言葉のみでポイントでは理解しにくい児童には、動画を繰り返し視覚的に確認させる。 ☆友達の動作を見て、良い点や改善点を伝える。	筆記用具 補助器具 ゲームボード 動画カメラ



☆実践 (動画補助 (ポイントのみ))  
☆動画を見る場合は目の位置から、足元から撮る。

5	6 できるようになった児童の動作を複製する。足元撮影を促す。	○お母のポイントを確認できるような意見の交換があったら、お母の姿を撮り上げていく。	
1	7 整理運動を行う。	○膝掛け振り上げりのポイントを整理カードに書く。 ☆膝掛け振り上げりのポイントを理解している。 【思・持・動】①	学習カード



本時の指導 (A/S)

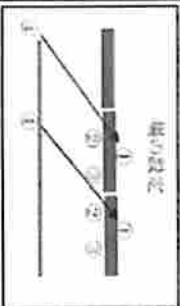
(1) 目標

＜知識及び技能＞ ①足を振り上げることができる。

＜学びの過程＞ ②技ができるようになるために、練習に意図を取り組むようになっている。

(2) 展開

時間	内容	指導・支援、評価	用具・資料
20分	<p>1 集合・整列・挨拶・健康観察・服装・持ち物の確認をする。</p> <p>2 予備的運動を行う。 腕・手首・足首のストレッチ、首回し</p> <p>3 感覚作りを行う。 ①フットボールの振り回し ②ころもりジャンケン ③軟球投 ④たたくこぶ ⑤膝押し振り上がり (補助あり・補助なし)</p> <p>4 ④足の動きに注目させ、歩調のゆたかである所でない側を見指させて、歩調のゆたかを確認する。前後のゆたかを確認する。</p> <p>5 足を振り上げた勢いよく回転するようにはびき振り回す回りに取り組む。</p>	<p>①顔色を見ながら、健康観察をし、服装の確認をする。</p> <p>②フットボール感覚で行えるようにはし、靴しみながら感覚づくりができるようにはする。</p> <p>③友達の様子の様子を見て、良い点や改善点を伝え、必要に応じて補助をするように指導していく。</p> <p>④膝が伸びていない児童には、伸ばすよう声をかけたり、膝をおさるなど補助をしたりする。</p> <p>⑤できるよりのなつた児童は、足が代えたり、連続回りに挑戦したりするなどして技を磨くようには指導していく。</p> <p>⑥言葉のみがフットボールでは理解しにくい児童には、動画を振り回す回りに確認させる。</p>	<p>運動用具 補助器具 フットボール 軟球 マット</p>



①の技 (②の補助) (フットボール) ③の動きをする場合は足の位置から、足側から振る。

20分	<p>4 できるよりのなつた児童の技技を評価する。良い感想を伝える。</p> <p>5 振り回しを行う。片付けをする。</p>	<p>①本時のポイントを確認し、学習カードに記入するようには指導する。</p>	<p>足を振り上げることができる。 【加・技】③ ④技ができるようになるためには、練習に意図を取り組むようになっている。 【注】⑤</p>	学習カード
-----	---	---	---	-------

本時の指導 (6 / 8)

(1) 目標

<知識及び技能>  
◎足を大きく振り、勢いよく跳り上げることができる。

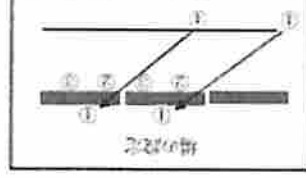
&lt;思考力、判断力、表現力等&gt;◎技のホントについて理解し、その技に応じた練習に取り組んでいる。

(2) 展開

課程	時間	学習内容と活動	指導・支援、学習	用具・資料	
1	1	集合・整列・挨拶・健康観察・朝 礼・持ち物等の確認をする。	◎顔色や表情を見ながら、健康観察を し、服装の確認をする。		
1	2	予備的運動を行う。 腕・手首足首のストレッチ、背筋比			
7	3	感覚作りを行う。 ①-①2m→後ろ振り跳行 ②-②1m→後ろ振り跳行 ③-③1m→後ろ振り跳行 ④-④1m→後ろ振り跳行 ⑤-⑤1m→後ろ振り跳行 ⑥-⑥1m→後ろ振り跳行 ⑦-⑦1m→後ろ振り跳行 ⑧-⑧1m→後ろ振り跳行 ⑨-⑨1m→後ろ振り跳行 ⑩-⑩1m→後ろ振り跳行	◎ゲーム感覚で行えるようにし、楽し みながら感覚作りができるよう にする。 ◎音で声に出して確認をする。		
5	4	めあての確認 ◎足を振り上げる前の準備(足目さ み、肩幅、腕の振り幅、腕の振り幅) ◎足を見ない向を見指して、本時 中、本時のめあてに気づけるよう にする。 ◎音で声に出して確認をする。	◎足を大きく振り、勢いよく跳り上げ、ひざ折り後ろ向きに取り組み、う		
2	5	2	◎足の跳びを見て、良い点や改善点 を伝え、必要に応じて補助をする上 で指導していく。 ①-①1m→後ろ振り跳行 ②-②1m→後ろ振り跳行 ③-③1m→後ろ振り跳行 ④-④1m→後ろ振り跳行 ⑤-⑤1m→後ろ振り跳行 ⑥-⑥1m→後ろ振り跳行 ⑦-⑦1m→後ろ振り跳行 ⑧-⑧1m→後ろ振り跳行 ⑨-⑨1m→後ろ振り跳行 ⑩-⑩1m→後ろ振り跳行	◎戻りに足が伸びていない状態には、 教員がト カフボード を投入、必要に応じて補助をする上 で指導していく。	
2	6	3	◎できるよになった児童の演技 を発表する。見た感想を伝え る。 ◎本時のポイントを確認できるよう に意見や感想にのびるような発 言を取り上げていく。	◎戻りに足が伸びていない状態には、 教員がト カフボード を投入、必要に応じて補助をする上 で指導していく。 ①-①1m→後ろ振り跳行 ②-②1m→後ろ振り跳行 ③-③1m→後ろ振り跳行 ④-④1m→後ろ振り跳行 ⑤-⑤1m→後ろ振り跳行 ⑥-⑥1m→後ろ振り跳行 ⑦-⑦1m→後ろ振り跳行 ⑧-⑧1m→後ろ振り跳行 ⑨-⑨1m→後ろ振り跳行 ⑩-⑩1m→後ろ振り跳行	
2	7	4	◎本時のポイントについて振り返り、 学習カードに残すように指導する。		
2	8	5	◎本時のポイントについて振り返り、 学習カードに残すように指導する。		

20

20

5 ゲームごとに練習する。  
◎役割を確認し、練習に取り組  
む。①演技 ②補助 (フリース)  
◎動画作る場合は①の位置か  
ら、足幅から来る

◎戻りに足が伸びていない状態には、  
教員がト  
カフボード  
を投入、必要に応じて補助をする上  
で指導していく。  
①-①1m→後ろ振り跳行  
②-②1m→後ろ振り跳行  
③-③1m→後ろ振り跳行  
④-④1m→後ろ振り跳行  
⑤-⑤1m→後ろ振り跳行  
⑥-⑥1m→後ろ振り跳行  
⑦-⑦1m→後ろ振り跳行  
⑧-⑧1m→後ろ振り跳行  
⑨-⑨1m→後ろ振り跳行  
⑩-⑩1m→後ろ振り跳行

◎できるよになった児童は、足を代  
えたり、連続回りに挑戦したりする  
など工夫して技を磨くように指導す  
る。  
◎動画作る  
その動きの演技をするように指導す  
る。  
◎動画作る  
その動きの演技をするように指導す  
る。  
◎動画作る  
その動きの演技をするように指導す  
る。

時間	内容	指導・支援、学習	用具・資料	
1	1	集合・整列・挨拶・健康観察・朝 礼・持ち物等の確認をする。		
1	2	予備的運動を行う。 腕・手首足首のストレッチ、背筋比		
7	3	感覚作りを行う。 ①-①2m→後ろ振り跳行 ②-②1m→後ろ振り跳行 ③-③1m→後ろ振り跳行 ④-④1m→後ろ振り跳行 ⑤-⑤1m→後ろ振り跳行 ⑥-⑥1m→後ろ振り跳行 ⑦-⑦1m→後ろ振り跳行 ⑧-⑧1m→後ろ振り跳行 ⑨-⑨1m→後ろ振り跳行 ⑩-⑩1m→後ろ振り跳行	◎ゲーム感覚で行えるようにし、楽し みながら感覚作りができるよう にする。 ◎音で声に出して確認をする。	
5	4	めあての確認 ◎足を振り上げる前の準備(足目さ み、肩幅、腕の振り幅、腕の振り幅) ◎足を見ない向を見指して、本時 中、本時のめあてに気づけるよう にする。 ◎音で声に出して確認をする。	◎足を大きく振り、勢いよく跳り上げ、ひざ折り後ろ向きに取り組み、う	
2	5	2	◎足の跳びを見て、良い点や改善点 を伝え、必要に応じて補助をする上 で指導していく。 ①-①1m→後ろ振り跳行 ②-②1m→後ろ振り跳行 ③-③1m→後ろ振り跳行 ④-④1m→後ろ振り跳行 ⑤-⑤1m→後ろ振り跳行 ⑥-⑥1m→後ろ振り跳行 ⑦-⑦1m→後ろ振り跳行 ⑧-⑧1m→後ろ振り跳行 ⑨-⑨1m→後ろ振り跳行 ⑩-⑩1m→後ろ振り跳行	◎戻りに足が伸びていない状態には、 教員がト カフボード を投入、必要に応じて補助をする上 で指導していく。 ①-①1m→後ろ振り跳行 ②-②1m→後ろ振り跳行 ③-③1m→後ろ振り跳行 ④-④1m→後ろ振り跳行 ⑤-⑤1m→後ろ振り跳行 ⑥-⑥1m→後ろ振り跳行 ⑦-⑦1m→後ろ振り跳行 ⑧-⑧1m→後ろ振り跳行 ⑨-⑨1m→後ろ振り跳行 ⑩-⑩1m→後ろ振り跳行
2	6	3	◎できるよになった児童の演技 を発表する。見た感想を伝え る。 ◎本時のポイントを確認できるよう に意見や感想にのびるような発 言を取り上げていく。	◎戻りに足が伸びていない状態には、 教員がト カフボード を投入、必要に応じて補助をする上 で指導していく。 ①-①1m→後ろ振り跳行 ②-②1m→後ろ振り跳行 ③-③1m→後ろ振り跳行 ④-④1m→後ろ振り跳行 ⑤-⑤1m→後ろ振り跳行 ⑥-⑥1m→後ろ振り跳行 ⑦-⑦1m→後ろ振り跳行 ⑧-⑧1m→後ろ振り跳行 ⑨-⑨1m→後ろ振り跳行 ⑩-⑩1m→後ろ振り跳行
2	7	4	◎本時のポイントについて振り返り、 学習カードに残すように指導する。	
2	8	5	◎本時のポイントについて振り返り、 学習カードに残すように指導する。	

本時の指導 (7/8)

(1) 目標

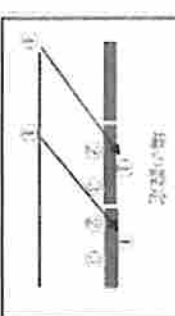
＜知識及び技能＞ ◎膝掛け後ろ回りのポイントを理解している。

＜思考力、判断力、表現力等＞ ◎友達の評価を見て、良い点や改善点を探している。

(2) 展開

階段	時間	学習内容と活動	指導・支援、学習面	用具・資料
はじり				
1		1 集合・整列・挨拶・健康観察・服装・持ち物等の確認をする。 2 予備的運動を行う。 膝・手首・足首のストレッチ、背筋体操	◎顔色や表情を見ながら、健康観察をし、服装の確認をする。	
2		3 膝掛け後ろ回りを、 ①つま先→後ろ回り膝ひざ ②こま回りズケンケン ③腕伸ばし ④ふんこま ⑤膝掛け後ろ上がり (補助あり→補助なし)	◎ゲーム感覚で行えるようにし、楽しくながら感覚ツクリができるようにする。 ※資料参照	
3		4 めあての確認 本時のポイントを確認する。体操のめあてを確認する。	◎ひざ掛け後ろ回りのポイントを確認する。 ◎席で席に出して確認をする。	
		5 足を引き、勢いよく回るようにひざ掛け後ろ回りの練習をする。	◎席で席に出して確認をする。	

資料 17

大	20	5	3	2	
か		カローンコートに練習する。 ・姿勢を確認し、練習に取り組む。	 <p>場の設定</p> <p>①後肢 ②前補助 (ポイント5) ③軸足を置く場合は足の位置から、足側から掛る。 ④さがるようにはなった肩幅の減衰を早表せる。見た感想を伝える。</p>	◎友達の動作を見て、良い点や改善点を探している。 ◎自分の動作を、児童には、補助をしたり、改善点を助言したりする。 ◎できるようにはなった児童は、足をおろしたり、補助的に行ったりする。 ◎また戻して技を早くように指導していく。	家庭用具 補助器具 クマレット 軟垫マット
		1 膝掛け運動を行う		学習カード	
		2 振り回りをし、目印を中心する			
		3 足を引き、勢いよく回るようにひざ掛け後ろ回りの練習をする。	◎本時のポイントを確認できるように足幅や姿勢に合わせたような要領を取り上げていく。		
		4 めあての確認 本時のポイントを確認する。体操のめあてを確認する。	◎児童が振り上げのポイントを学習カードに書き込む。 ◎膝掛け後ろ上がりポイントを確認している。 【知・技】1		

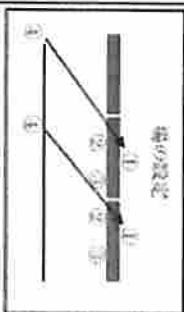
本時の指導 (8/8)

(1) 目標

<知識及び技能>の目標は振り上がりやひざの動きの回りができる。

(2) 展開

時間	内容	指導・支援、評価	道具・資料
はじめ	1 集合・整列・挨拶・健康観察・服装・持ち物等の確認をする。	○顔色や表情を見ながら、健康観察をし、服装の確認をする。	
10分	1 2 準備的運動を行う。 腕・手首足首のストレッチ、前向き		
	3 感覚作りを行う。 ①つまみ一枚を振り振び ②ころもりゴキゲン ③鉄槌はし ④だんご虫 ⑤鉄槌が振り上がり (補助あり・補助なし)	○サーッと感で打てるようにし、着し みながる感覚をくることができるよう にする。 ※資料参照	
	4 めあでの確認 本時のめあてと鉄槌の向きを確認する		
	5 ひざの振り上がりやひざの動きの回りの確認をしよう。		
10分	3 フルーツごとに練習する。 ・投球を確認し、練習に振り組む	○めあておさえたポイントを中心に 友達の実技を見て、良い点や改善点 をはえるように指導していく。 ○技の完成していない児童には個別 に助言や補助をしていく。 ○自分の得意にあった練習をするよ う指導をする。 ☆鉄槌が振り上がりや後ろ方鉄槌は同 様のポイントを理解している。 【知・技】①	筆記用具 補助器具 フライト 鉄槌ポイント



①鉄槌 ②ゴキゲン  
☆鉄槌をふる場合は③の位置から、足指から振る。

2分	6 鉄槌を打つ 鉄槌が振り上がり	○鉄槌が振り上がり、鉄槌が後ろの回りを発表する。 ○できるよになったポイントを言っているから発表するよ。指導をする。	
2分	7 整理運動を行う。		
5分	8 振り振り遊び、片付けをする	○代表を決める鉄槌は、上手な子、最初のは、一番前の子など、理由を考えて選ぶように指導をする。 ☆鉄槌が振り上がりや後ろ鉄槌は同様のことが出来る。 【知・技】②③	学習カード


6. 学習カード

気体運動 カード

---

年 組 番 名前

気体運動のやり方



自分のあてはまる絵の中から正しいものを書きまわす。

.....

.....

○自分のあてはまる絵の中から正しいものを書きまわす。

- ・自分のあてはまる絵
- ・自分のあてはまる絵
- ・自分のあてはまる絵
- ・自分のあてはまる絵
- ・自分のあてはまる絵

観察

.....

.....

.....


.....

気体運動 カード

---

年 組 番 名前

気体運動のやり方



自分のあてはまる絵の中から正しいものを書きまわす。

.....

.....

○自分のあてはまる絵の中から正しいものを書きまわす。

- ・自分のあてはまる絵
- ・自分のあてはまる絵
- ・自分のあてはまる絵
- ・自分のあてはまる絵
- ・自分のあてはまる絵

観察

.....

.....

.....

.....